

せたがや 町総連だより

第51号

発行 世田谷区町会総連合会

世田谷区若林 4-31-9 ポライト第2ビル202

☎・FAX 5481-3456

発行人 会長 山野井 崇 二

編集 情報誌編集委員会

編集委員長 堀 江 義 之

「町総連トークイベント」第4回目を迎えました!



開会あいさつ



講演

令和元年12月14日(土)成城ホールで東京オリンピック・パラリンピックに向けた気運醸成のためのトークイベントを実施しました。

本イベントの第1回目は、平成28年3月11日(土)に開催されました。コラムニスト泉麻人さんの講演、歌手の早見優さんと、アテネ・北京2大会競泳メダリストの中村礼子さんの対談でした。第1回目から、会場前には大勢の来場者が列を作るなど大盛況でした。それから数えて、ついに今回第4回目を迎えました。

当日は、まず町会総連合会を代表して山野井会長が「オリンピック・パラリンピックが成功するために、町会・自治会がムードを盛り上げて、世界の人たちにわが町世田谷の良さを伝えましょう。」と、開幕の挨拶をしました。

第一部は、評論家の山田五郎さんの講演「本当に必要なおもてなし～2020年に向けて～」でした。

世田谷区若林で幼年時代を過ごした山田さん、1964年の東京オリンピック・パラリンピック前後を振り返って、近年、世田谷はセレブのイメージを持たれますが、「当時から住んでいる人は気取りのない、自然体の人たちでした。」と懐かしんでおられました。

山田さんは、オリンピック・パラリンピックを控えるこの時期に気になる、「外国の方々へのおもてなしはどうすればいいか」という問いに、「日本語で説明できないことは、英語でも説明できません。」と言われ、目的の『コミュニケーション』よりも、手段の『英語』を重視する風潮に異議を唱えました。客席へ「相手の国に興味を持つこと。そして、わが町世田谷にある歴史や文化に興味を持ち、再認識していくこと。」が必要だとお話いただきました。

「本当のおもてなしとは何か」がテーマの講演で、山田さんは、「田舎でもなく都会でもない世田谷がいい。オリンピックだからといって無理をしないでください。自然体で気取らないことが大事です。」「住みやすい世田谷のまちづくりこそ、本当のおもてなしです。」と、肩肘を張ってしまいがちな私たちへ、「お

もてなし」の原点に帰る言葉を、最後に贈ってくださいました。

第二部は、「2020年をキックオフの年にしよう」のタイトルで、リオデジャネイロオリンピックで、日本オリンピック委員会強化スタッフ(柔道)を務め、現在は日本体育大学准教授であり、骨格筋評論家「バズーカ岡田」としてもメディアで活躍中の岡田隆さんと、北京オリンピック日本代表(体操)として選出され、団体総合銀メダル獲得に大きく貢献した坂本功貴さんの対談が行われました。

岡田隆さんと坂本功貴さんの対談は、「筋肉話」で大いに盛り上がりました。ボディビルダーでもある岡田さんは「積極的にたんぱく質をとる」「魚と肉をとって、より良いたんぱく質をとる」と、筋肉のつけ方を紹介。坂本さんに、「体操選手の筋肉は丸くて綺麗ですね。」と絶賛すると、坂本さんは「体操の選手は(筋肉をつけるための)トレーニングはしません。体操競技をやっていくなかでついてくる筋肉です。」とお話されました。

オリンピック・パラリンピックに向けて、私たちにできることを伺いました。「代表選手に世田谷に住んでいる人もいます。身近に感じてほしい。桜新町あたりを走っているの、ぜひ声をかけてあげてください。」と、岡田さんがおっしゃっていました。

山田さん、岡田さん、坂本さんから、これからオリンピック・パラリンピックに向けて私たちがムードを高めていくための良い助言を頂き、イベントを締めくくりました。

新型コロナウイルス感染症拡大の影響で、東京オリンピック・パラリンピックは1年延期となりましたが、世田谷区町会総連合会は、これからもわが町世田谷から東京オリンピック・パラリンピックを盛り上げて参ります。



トークショー

地域情報

世田谷地域

桜丘町会ってどんなところ

桜丘町会 会長 岡庭茂行



千歳通りの玉石垣と桜並木

桜丘町会は、今年創立65周年の年に当たります。「桜丘」なんて地名のつく地域は日本全国いくらでもあるでしょう。ここ世田谷区桜丘は、そんじょそこの桜丘とちょっと違うと自負しています。町会の範囲は、世田谷区の北西部に位置し、住環境は最高、世田谷通りと城山通り、西は環状8号線に囲まれ真ん中に千歳通りがはしり、東名高速の東京IC、首都高速の用賀出入口に近く、北には小田急線が走り交通網にも恵まれています。桜丘町会管内の約6,500世帯のうち町会加入は40%程度です。

一方、23区内の標高最高地点を見ますと、何と3番目が桜丘町会内の5丁目8番で52mあり、千歳通り沿いの土手の上（品川用水路跡の玉石垣で都内最長、桜並木も東農大まで約600m続く）からは新宿副都心や遠くはスカイツリー等々の夜景が綺麗に遠望できます。この土手の上での「桜まつり」は例年大盛況になります。今年は世田谷まちなか観光馬車の同時開催を予定していたのですが、新型コロナウイルス感染症の大流行により、中止せざるを得ませんでした。

さて、町会の年間行事等々については、どこの町会さんも似たり寄ったりだと思いますので割愛し、特色ある地域情報を1つ紹介します。

千歳船橋駅近くの稲荷守稲荷神社（とうかもりいなりじんじゃ）の大太鼓「あ・ん太鼓」は、平成2年5月完成。昭和の末期に神輿かつぎの若者同士（横根睦会）が、ひょっとした切っ掛け（これが名前の由来 あ・んの呼吸）で、太鼓を新調しようという事になったのは良かったのですが、問題はその資金。…思案の結果、段ボール、古紙、雑誌を回収し資金源にしようという事になり、それから2年間、各自の仕事が終わり毎日夜な夜な地元商店街、住宅地はもとより近隣の商店街まで回収に奔走した結果、何とか資金は集まったものの、太鼓が出来上がった時点では支払金額に少々不足、同志はなけなしの小遣いを出し合い（寄付）何とか2千7百万円の「あ・ん太鼓」が手に入った。と思ったら収めるところが無い。すると奉納先の神社が急いで倉庫を新調してくれました。何と当時は国内2位の大きさと聞いていたが、今でも10指に入る大きさです（直径2.3m、重さ2.5t）。世田谷区民まつりには毎回出場していたが、その後は地元の例大祭のみ、神輿とともに町内渡御をしています。

一見の価値あり、他町会とちょっと違うところを紹介しました。

安全で安心して住めるまちづくりのため、お互い頑張りましょう。



あ・ん太鼓

北沢地域

安心安全、住み良い町づくり

新代田地区町会連合会 会長 額 賀 安 平

私たちの住む町は、世田谷区の北東にて、甲州街道を北に環状7号線を真中にして、両側に沿って連なり、大原、羽根木、代田にわたり10町会あり、会員の皆様のご支援ご協力を賜って、新代田まちづくりセンターを中心にして安全で安心、住み良い町づくりを目標とし、日々努力をしております。

私たちの新代田地区町会連合会は、春秋の交通安全、防災活動、その他種々にわたり各町会の協力をいただき活動しております。

特に当地区ではまちづくりセンターを中心に、住み良い町づくりを目標に、地区内の小学校のご支援ご協力をいただき、「まちぐるみ運動会」を毎年10月に実施しております。身近なまちづくり推進協議会、青少年地区委員会が主催となり、新代田体操クラブ連合会や民生・児童委員協議会、小・中学校PTA、社会福祉協議会などのご協力を得て、昭和・平成・令和と子どもも大人も集って競技種目を楽しみ、思い出づくりいろいろな心配りを尽くし続けております。

また、当地区は大きな街道に囲まれている中でも緑多く住み良い町です。そのひとつに世田谷区立羽根木公園があります。

その由来を簡単に申し上げますと、昔、六郎次山と呼ばれておりましたが、大正末期に敷地の一部が根津財閥の所有になったことから根津山公園と呼ばれ、都が昭和31年に公園として、羽根木公園と名づけました。その後、昭和40年に世田谷区へ移管され、その面積は約24,000坪となり、南斜面地には梅の木が植樹され、広場には野球場、子どもの広場、児童遊園、テニスコートもあり私たち区民の憩いの場として親しまれております。

現在梅園は植樹を繰り返し、紅梅は270本、白梅は380本、計650本となり、「せたがや梅まつり」も今年43回を迎え、最近ではテレビでも放送されるようになりました。

これも地元の人々がせたがや梅まつり実行委員会を作り、世田谷区の後援と地元商店会、地域の町会、地元有志の皆様のご支援により開催されているからです。

また、昭和56年より区と緑組協定を結んでいる群馬県川場村より物産等のご支援をいただき、模擬店も多く出店され、各町会もみやげ品の販売に協力し、広場では舞台で高齢者クラブ、町会・商店会の有志の皆様が歌や踊り、小学生の和太鼓の演奏で賑わうなどいろいろな催し物があります。

特に世田谷区指定無形民俗文化財に指定されている「三土代(みとしろ)会の代田餅搗(つ)き」の6人搗きに感激し、搗き終わった餅をいただく人々の喜ぶ姿も多く、年々歳々賑々しく開催しております。

今年の梅まつりは、新型コロナウイルス感染症対策のため途中で中止となりましたが、来年はぜひ、いつもの活気ある行事となるように、また皆様のご健康もあわせて心からお祈りいたします。

これからも安全で安心、住み良い町づくりの目標達成のため、全町会員のご支援ご協力を賜り、努力して参りたいと思います。



梅まつり



三土代会 餅搗き会

玉川地域

「持続可能な風土づくり」をめざして

瀬田町会 会長 吉 岡 光 章

戦後、現町会の原型は防犯協力会として、昭和22年よりその歩みを始めた先輩から伺いました。当時世田谷区の人口は35万人強で現在の92万人超の状況を想像することは困難であったとも思います。

瀬田町会は国分寺崖線の高台に位置し、豊かな緑に囲まれ遠くに富士山を望む絶景のロケーションにある、恵まれた風土を有している町だと思えます。そして昭和39年の東京オリンピックにあたり、町内の主要道路

環状八号線、国道246号線の拡張工事があり、町の様子も変わり、更には昭和46年9月に住所表示変更の実施に伴い、瀬田1丁目～5丁目、玉川台1丁目・2丁目、上野毛4丁目と町名変更があり、玉川瀬田町の分割で戸惑いを感じた住民も多かったと聞いております。

さて瀬田町会の活動は、年間を通じ非常に多くのものがあります。主なものとしては、5月瀬田農業公園・フラワーランドの集い、8月ラジオ体操、9月敬老会、11月瀬田ふれあい運動会、2月避難所運営・防災訓練と毎日の防犯パトロールがあります。

特に昭和63年より始まった瀬田ふれあい運動会は特筆すべきものだと思います。

地域の20団体の協力をいただき、誰でも参加できる延べ人数2,000人超の大運動会で、瀬田の町を東西に仕切り、紅組・白組に分けての対抗型にしています。新旧住民、家族、老若男女、皆が楽しめて集える地域住民全員が参加できるものです。



フラワーランドの集い



瀬田ふれあい運動会

特に平成9年からは、地元瀬田小学校に「おやじの会」が発足し、またそのOBの会「親瀬会（しんせかい）」も協力団体に加わっていただき、新しい企画、運営に積極的にご提案もいただいています。

そして今では、町会の活動全般にお力をいただき町会役員としても数名の方が加入され、組織の若返り及びニューパワーとして活躍しています。持続可能な社会、組織、風土作りには欠くことのできない存在になっています。

そして、今後皆で力を合わせて一層地域の活性化を進め、『住んでいて良かった』と多くの人々に感じていただける町づくりを進めていきたいと考えています。

※次号は砧地域・烏山地域の情報を掲載します。

編集後記

新型コロナウイルス感染症拡大に伴い緊急事態宣言が出されたのは4月7日。この日は今年、地球に満月が最も近づいた夜でした。普段の満月よりも14%月が大きく見える「スーパームーン」の出現です。

NHKラジオでは「大きく見えてもこのスーパームーンは五円玉の穴よりも小さい」と解説があり、私はいぶかしく思いながら指先に五円玉を持って月を覗いて見ました。確かに「スーパームーン」はこの穴に収まっていたのです。大空の月が大きく見えるのは周りに比較する物体が無いからだそうです。このように絶対評価と思われるものは時に大変な錯覚を伴っているものだと強く感じた次第です。

この「せたがや町総連だより」には毎号各地域の特色などが丁寧に紹介されています。お互いを知り合う情報の交換をすることで、いろいろな形でこの地域社会に貢献できるであろうと確信しております。

編集委員 阿部平四郎

世田谷区町会総連合会のホームページ

世田谷区町会

検索

※QRコード



バーコードの一種で、携帯電話で撮影して、簡単にホームページを見ることができます。